

小児科・新生児科 後期研修プログラム

1. 診療科の特色

当院小児科後期研修においては、卒後臨床研修終了後 3 年目から最低 2 年間、一般小児病棟と NICU を交互に 3 ヶ月単位でローテーション勤務を行い、新生児医療を含む小児医療全般に必要な基本的知識・技術・診療態度の修得を目標としており、研修終了時には小児科専門医資格取得のために十分な診療能力と臨床経験を得ることが可能である。当院小児科は地域センター病院小児科としての役割を担っており、小児救急疾患・新生児疾患を含む小児二次医療を要するあらゆる疾患に対応可能な診療を行っている。当院 NICU は地域周産期センターとして機能しており、NICU 当直医が毎日常駐し 24 時間体制で新生児搬送依頼への対応も含めた地域の新生児医療の中核的役割を果たしている。また、常勤の小児科専属臨床心理士をスタッフに持ち、小児心身症や重症疾患の両親に対する精神的サポート、不登校の児への対応など、小児の心の問題にも対応可能な幅広い診療体制で診療運営を行っている。小児救急時間外診療に関しては、NICU 当直・一般小児科当直を合わせて月に 5 - 6 回程度あり、原則として当直翌日の午後は帰宅可能な無理のない診療体制で運用がなされている。一般小児科当直のない日（ひと月に 15 日ある）は、一般小児科待機医師を設定して対応している。

当院小児科は名古屋大学小児科関連施設であり、通常、後期研修 2 年間(卒後 4 年間)を当院で終了後、名古屋大学小児科医局の人材育成プログラムに基づき名古屋大学付属病院で 6 ヶ月間の小児科医局フレッシュ研修が予定されている。原則として名古屋大学小児科フレッシュ研修を終えた後に、小児科常勤として一般および専門関連病院赴任、大学院入学、関連施設外の国内研修などが選択される（詳細は名古屋大学小児科後期臨床研修プログラムをホームページで参照）。当院での後期研修中、希望を踏まえて小児科学会入会、名古屋大学小児科医局入局推薦、名古屋大学小児科大学院入学への推薦が可能である。また、当院は日本小児科学会専門医研修施設に認定されており、一定の研修期間在籍することにより、小児科専門医資格取得のための受験資格が得られるとともに臨床指導が行われる。

2. 研修期間

原則として 2 年間の後期研修を基本とし、名古屋大学小児科医局人材育成プログラムに準拠する。当院後期研修中は、原則として 3 ヶ月ごとに一般小児病棟勤務と NICU 勤務をローテーションする。希望により 6 ヶ月間連続で NICU・一般病棟勤務継続可能。

1 - 3月	4 - 6月	7 - 9月	10 12月
N I C U	一般小児病棟	N I C U	一般小児病棟

3. 目標

(1) 小児科到達目標

A, 行動目標

医療面接

- 1)乳幼児に不安を与えないように年齢に応じた対応ができる
- 2)乳幼児とのコミュニケーションがとれる
- 3)保護者から発病の状況、症状の経過、成長発達歴、既往歴、予防接種歴などを要領よく聴取し、適格な記載ができる
- 4)保護者に適切な病状説明と療養の指導ができる
- 5)虐待について説明できる
- 6)母子健康手帳を理解し、活用できる

診察

- 1)小児の身体測定、検温、血圧測定ができる
- 2)発育、発達、生活状況が年齢相当のものであるかどうか判断できる
- 3)小児の発達、発育に応じた特徴を理解できる
- 4)全身状態（動作、行動、顔色、元気さ、発熱の有無、食欲など）を観察し、緊急性の有無を把握して提示できる
- 5)視診により栄養状態、発疹、呼吸状態、チアノーゼ、脱水症の有無を確認できる
- 6)発疹を観察し、所見を記載できる。頻度の高い発疹性疾患（麻疹、風疹、水痘、突発性発疹症、溶連菌感染症など）の特徴を理解し、鑑別ができる
- 7)下痢症児では便の性状（粘液便、水様便、血便など）、脱水症の有無を説明できる
- 8)嘔吐や腹痛のある児では腹部所見の有無を指摘し、病態を説明できる
- 9)小児の意識障害の特徴を理解し、対処できる
- 10)痙攣を診断できる。髄液刺激症状、大泉門の所見を認識できる
- 11)胸部、腹部、頭頸部（咽頭所見、学童以上の眼底所見）、四肢の所見を適格に把握し、正確な用語で記載できる

基本的手技

- 1)乳幼児を含む小児の採血、皮下注射、静脈注射、点滴確保ができる
- 2)輸液、輸血およびその管理ができる
- 3)新生児の光線療法の必要性の判断およびその指示ができる
- 4)導尿ができる
- 5)注腸、高圧浣腸ができる
- 6)胃洗浄ができる
- 7)腰椎穿刺ができる

臨床検査

小児特有の検査結果を解釈できるようになる

薬物療法

- 1)小児の体重別、体表面積別の薬用量を理解し、それに基づいて薬剤の処方箋、指示書の作成ができる

- 2) 剤型の種類と使用法の理解ができる
- 3) 乳幼児に対する薬剤の服用法、使用法について理解し、実際に処方できる
- 4) 病児の年齢、疾患、病態などに応じて輸液の適応を確定し、種類と量を指示できる

小児保健に関して修得すべき知識

- 1) 母乳、調整乳、離乳食の知識を学び指導できる
- 2) 乳幼児の身長、体重増加の知識を学び、異常を発見できる
- 3) 予防接種の種類と実施方法および副反応とその対処法を学ぶ
- 4) 発育に伴う体液生理の変化と電解質、酸塩基平衡に関する知識を学ぶ
- 5) 神経発達の評価と異常の検出について学ぶ

小児の救急医療

脱水症の程度を判断でき、応急処置ができる
痙攣の鑑別診断ができ、痙攣状態に対して応急処置ができる
腸重積症を正しく診断して適切な対応がとれる
虫垂炎を診断し、外科にコンサルトできる
気道確保、バッグとマスクによる人工呼吸、胸骨圧迫式心マッサージ、静脈、
動脈ライン確保など一連の蘇生術が行える
下記病態に対応できる

- 1、心不全
- 2、脳炎、脳症、髄膜炎
- 3、急性喉頭炎
- 4、アナフィラキシーショック
- 5、急性腎不全
- 6、消化管および気道異物
- 7、ネグレクト、被虐待児
- 8、心肺停止症例、S I D S
- 9、事故（溺水、転落、中毒、熱傷など）

(2) 母子医療センター（新生児科）到達目標

A, 行動目標

身体診察法

- 1、全身の観察ができ、記載できる
- 2、速い心拍数に慣れ、心雑音を聴取できる
- 3、視診による黄疸の評価ができる

基本的な臨床検査

- 1、新生児の正常値を理解し、評価できる

- 2、血液ガスの解釈をし、説明できる
- 3、胸部、腹部レントゲンの読影
- 4、ビリルビン（検査と評価）
- 5、頭部、心臓超音波検査

基本的治療法

- 1、輸液療法、電解質の調節、高カロリー輸液
- 2、光線療法と交換輸血
- 3、人工換気療法
- 4、栄養法

特定医療現場の経験

- 1、出生時の蘇生
- 2、フォローアップ外来
- 3、異常分娩（帝王切開を含む）の立会い
- 4、気管内挿管、気管カニューレの交換
- 5、家族（特に母親）への対応

4．方略

A. LS 1（On the job training）

週間スケジュールに基づき 入院・外来患者の診療を行い臨床経験を積む

小児科学会専門医研修認定施設・周産期新生児専門医研修認定施設

院内学級（たんぼぼ）・病棟保育士あり

<小児科救急時間外当直運営体制>

N I C U当直は 365 日毎日

一般小児科当直：毎週火・木曜日、隔週金・日曜日または土曜日(月に 15～16 回)

一般小児科待機：毎週月・水曜日

N I C U当直・一般小児科当直とも当直明け（当直翌日）は午後からフリー

*一般小児科当直は西三河北部医療圏小児二次救急輪番制のもとで運用

B . L S 2 勉強会・カンファランス

C . L S 3 研究・学会活動

< 週間カンファランス・勉強会スケジュール >

	月	火	水	木	金
8:00 ~ 8:30				新生児関連 英文テキスト 抄読会	
8:30 ~ 8:50	新入院患者 症例提示 (一般小児)	新入院患者 症例提示 (一般小児)	新入院患者 症例提示 (一般小児)	新入院患者 症例提示 (一般小児)	新入院患者 症例提示 (一般小児)
17:00 ~ 18:00	夕の担当医 カンファ (一般小児 と NICU)	夕の担当医 カンファ (一般小児と NICU)	夕の担当医 カンファ (一般小児 と NICU)	夕の担当医 カンファ (一般小児 と NICU)	夕の担当医 カンファ (一般小児 と NICU)
18:00 ~		* 勉強会 PBL 方式 研修医対象 (1回/人/月)		定例カンフ ァ (一般小児)	NICU・産科 合同カンフ ァ

*problem based learning 形式で研修医教育上興味深い症例を題材にして
指導医・スタッフ・研修医で質疑応答や議論をしながら実践的な知識を身
につける

- ・朝の新入院患者カンファでは1・2年目研修医が症例提示しその問題点を
確認し治療プランを検討
- ・夕の担当医カンファでは、1・2年目の研修医が受け持つ患者の入院経過
と治療計画の内容確認を行い問題点を指導

日本小児科学会東海地方会で後期研修期間中に2回の発表を行う。

豊田加茂小児科医会例会で年2回の発表を行う。

後期研修期間中に最低一編の論文執筆を行う。

名古屋大学小児科関連病院多施設共同研究に参加して研究活動を行う。

Problem based learning 形式の教育指導の主体として活動しジュニアレジデントの指導に参画する。

5 . 評価

経験症例数、発表演題数、執筆論文数、チーム医療における主体性・貢献度など広く診療・研究・ジュニアレジデント教育活動に関して指導医と自らによる形成的評価により行われる。

6 . 研修終了後の進路

名古屋大学小児科入局後 名古屋大学大学院入学推薦

名古屋大学小児科入局後 6ヶ月間の大学病院研修（フレッシュ研修）終了後

名古屋大学小児科医局関連病院赴任

当院レジデントとして小児科スタッフとして勤務

希望あれば他の小児科医療専門施設赴任への推薦